

法医学入門（長谷川 巖）

Introduction to Forensic Medicine (Iwao Hasegawa)

キーワード

法医学
死因究明
法令
個人識別
画像診断

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④,⑤,⑥

授業概要

大学の学部教育で学んだ法医学から、更に踏み込んだ、実践的な法医学の実務に必要な知識を学ぶ。

授業科目の学習目標

- ・法医学ではどのようにご遺体を取り扱うのか、その具体的な方法を、法律(死体解剖保存法)に則り修得する。
- ・法医学解剖で得られる情報が、どのように予防医学、裁判医学に活かされるのか、その知識体系を修得する。
- ・生きている被害者の損傷から、どのような傷害があったのかを判断する方法を修得する。
- ・歯牙鑑定の方法を修得する。

授業計画

担当者:長谷川 巖

※各1コマ

1.死体現象

1)死の定義 2)早期死体現象 3)晩期死体現象 4)死体損壊 5)死後経過時間の推定 6)生活反応

2.内因性急死

1)心臓性突然死 2)大血管疾患 3)中枢神経系疾患 4)呼吸器疾患 5)代謝性疾患 6)妊娠・分娩と突然死

3.外傷

1)鈍器損傷 2)鋭器損傷 3)銃創 4)交通事故 5)窒息 6)熱傷と低体温症

4.個人識別

1)人獣鑑別 2)性別判定 3)身長推定 4)個人の特定 5)DNA鑑定 6)歯牙鑑定

5.医療倫理

1)安楽死 2)尊厳死 3)脳死 4)臓器移植 5)西洋医学における医の倫理の流れ 6)医療倫理の4原則

教科書および参考書

標準法医学 第7版 (医学書院)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

上記の参考書籍を事前に読んでくること。

大学院生が達成すべき行動目標

死体現象、内因性急死、外傷、個人識別、医療倫理について、その内容と概要を説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画に記載された各1~5の項目について課題を提出する。10%×5回=50%
- ・口頭試問は、授業計画に記載された各1~5の項目について知識の理解度を判定する。10%×5回=50%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な事項に関しては100%の理解を求める。